

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：需要家の行動変容に影響を与える要因に関する基礎的研究
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加機関終了時点）：  
研究代表者  
日高 一義（東京工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科 教授）  
主たる共同研究者  
村田 純一（九州大学 システム情報科学研究所 教授）  
井上 創造（九州工業大学大学院 工学研究所 准教授）  
荒牧 敬次（北九州スマートコミュニティ推進機構 専務理事）

### 3. 事後評価結果

#### ○評点

**A** 期待通りの成果が得られている

#### ○総合評価コメント

本研究は、需要家から得られるデータの分析と需要家への情報提供を通じて、需要家の行動変容に影響を与える要因に関する基礎的な知見を蓄積することを目的とした。需要家の行動変容に影響を与える要因に関する基礎的研究では、複数の世帯を対象に自己電力消費量の表示効果を調査し、メッセージ別の行動変容について明らかにした。また、消費電力を基に需要家のクラスタリング手法を確立し、需要家の電力消費・電力消費変化の分類を行った。更に照度センサから行動を自動推定・編集するアルゴリズムを開発し、援用することによって屋内照度、行動、電力消費という3種類のデータが統合された実データセットを得ることができた。1.5年間の研究期間ではあったが、需要家の分析を詳細に実施しデータ収集を順調に進め、消費者行動のパターン解析にまで繋げた点は評価できる。今後は需要家の消費行動のクラスタリングを行動に結びつけることなど、現状の課題を十分吟味した上で研究を進めることにより更なる成果が期待できる。